

献呈の辞

足立悦男先生には、平成二十四年三月をもって、定年を迎えられる。ここに、島根大学教育学部国文学会として心からの謝意をもって記念号を編集し、献呈する。

先生は、鳥取県境港市でお生まれになり、広島大学教育学部、同大学院教育学研究科で学ばれ、大阪教育大学助教授などを勤められた後、昭和六十三年一月に島根大学教育学部に着任された。それから二十四年間、大学の内外、国の内外において多大な業績を残された。

文学教材、文学教育、詩教育、文芸理論、児童文学などを中心とする国語教育学に関する業績は多彩にして重厚であり、『新しい詩教育の理論』『現代少年詩論』『西郷文芸学の研究』などの著書にも収まりきらず、『西郷竹彦文芸・教育全集』三十六巻編集の壮举にも及ぶ。さらに日韓の児童文学の比較研究にも犀利な見識が示された。

教育面での御功績も豊潤である。国語教育専攻の学生・大学院生がその卓越した指導力で育て上げられただけでなく、多くの外国人留学生や現職教員の研究が成功に導かれた。学外でも、全国大学国語教育学会理事、日本国語教育学会理事、日本教育大学協会理事・評議員などを歴任して学界を主導し、島根県教育課程審議会会長、鳥取県教育センター・スーパーバイザーなどを務めて地域の教育界にも幅広く貢献された。

大学の管理運営面における実績も際立つ。主な役職に島根大学副学長、島根大学教育学部附属小学校長、島根大学教育学部学生委員長などがあり、到底書き尽くせない。

お一人で何人分の職責を果たされたのか。底知れぬ能力に驚嘆する。しかし、それぞれの御功績が同時進行的に遂行されていることもあり、すべてが順調であったとは思われない。幾多の艱難辛苦を乗り越えられた違いは違いない。ところが、今、私の目でそれぞれの場面を振り返ってみると、余裕をもって難なくこなしておられたように感じられる。苦難を楽しんでおられたのではないかとさえ思われる。ここにこそ、足立悦男先生の真の偉大さがある。真に驚嘆すべきは

この壮大な「人間力」と呼ぶべきものなのである。

なお、先生は長く、本学会の会長を務められた。本号には、それへの感謝の念も込められている。学会は今後も永続します。足立先生、これからも変わりなく御指導ください。

平成二十四年二月二十九日

福田景道